

授業科目名	子どもの家庭支援論	教員名	木村 匡登	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
科目番号	SEN402	配当年次	3年後期		こども音楽療育士	
授業形態	演習				情報処理士	
単位数	2単位					
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	子育て家庭を取り巻く関係基盤が希薄になった現在、その 支援 機能を果たすことが 園や保育教諭に求められるようになった。そこで、 子ども家庭支援の現状、課題を踏まえ、子ども家庭支援の専門性を獲得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	現在の子育て家庭支援の現状と課題、ニーズに応じた多様な支援の展開について 理解を深め、保育の専門性を活かした子ども家庭支援 の意義 と基本、そして 子ども家庭 支援の 具体的な支援のあり方を 学ぶ					
履修条件・注意事項	特になし					
授業計画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） 子ども家庭支援の意義と役割Ⅰ（目標1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭支援の意義と必要性 <p>第2回：子ども 家庭支援の意義と役割Ⅱ（目標1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭支援の目的と機能 <p>第3回：保育士による子ども 家庭支援の 意義と基本Ⅰ（目標2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 <p>第4回：保育士による子ども 家庭支援の 意義と基本Ⅱ（目標2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちの喜びの共有 <p>第5回：保育士による子ども 家庭支援の 意義と基本Ⅲ（目標2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 <p>第6回： 保育士による子ども 家庭支援の 意義と基本Ⅳ（目標2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） <p>第7回：保育士による子ども 家庭支援の 意義と基本Ⅴ（目標2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の状況に応じた支援 <p>第8回：保育士による子ども 家庭支援の 意義と基本Ⅵ（目標2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 <p>第9回：子育て家庭に対する支援の体制（目標3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭の福祉を図るための社会資源 ・子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 <p>第10回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅰ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭支援の内容と対象 <p>第11回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅱ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所等を利用する子どもの家庭への支援 <p>第12回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅲ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て家庭への支援 					

	<p>第13回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅳ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童等及びその家庭に対する支援 <p>第14回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅴ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭支援に関する現状と課題 <p>第15回：全体のまとめ</p>
授業外学修時間の確保について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。</p> <p>授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。</p>
学生に対する評価	<p>授業外学習の課題として提出するレポート・ワークの内容と学期末試験の結果による総合評価を行う。</p> <p>評価の割合はレポート・ワークが全体の30%、期末試験の成績が全体の70%とする。</p> <p>なお、レポート・ワーク・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新基本保育シリーズ⑤「子ども家庭支援論」中央法規
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜提示する
担当者からのメッセージ	<p>授業への主体的な参加を期待します</p>
オフィスアワー	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実務教員は、この欄に自分が経験した実務内容を本授業でどのように活かすかなどを具体的に加筆してください。 <p>例) 担当教員は、中学校・高等学校における教員（理科）としての実務経験を活かし、●●についての演習を担当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールアドレスはシラバスに書く必要はありませんが、学生からの質問・連絡などで対応する必要があるため、最初の授業でメール番号やその他の連絡方法を周知してください。